

## 令和3年度 府中市総合教育会議 会議録

- 1 開会の日時  
令和3年10月15日（金）15時 開会
- 2 場所  
教育センター1階 会議室
- 3 出席委員  
小野市長、荻野教育長、高橋委員、和知委員、松尾委員、藤井委員
- 4 委員以外の出席者  
豊田総務部長、門田教育部長、近藤教育政策課長、大川学校教育課長、小寺学校教育課主幹、岡田政策企画課長、宇野政策企画課主査
- 5 協議事項
  - (1) 現在の教育環境などの状況（教育大綱の進行状況を含む）について
  - (2) 令和3年度の取組みについて
    - ① G I G A スクール進捗状況と今後の展開
    - ② 「ことば探究科」・府中市教育課程研究センターの状況
  - (3) その他（意見交換）
- 6 傍聴者  
0名（報道機関1社）

16時30分 終了

15:00 ■総務部長■開会に先立ちまして、会議の公開についてお諮りさせていただきます。

法律の規定により原則公開ということになっておりますので、本会議を公開することとしてよろしいでしょうか。また報道機関から本会議の撮影の許可の申し出がありますので、こちらの方もあわせて許可させていただくこととしてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは会議は公開とさせていただき、報道機関の撮影についても許可させていただきます。

ただいまから、令和3年度の府中市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、小野市長がご挨拶を申し上げます。

■市長■みなさん、こんにちは。教育委員の皆様にはお忙しい中、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

また日ごろは、府中市教育行政に何かとご尽力賜りまして重ねてお礼を申し上げる次第であります。

先月末をもって、緊急事態宣言は解除となりましたが、とはいえ、教育行政、また子供たちの学校生活は、昨年度より、新型コロナウイルス感染対策の影響を大きく受けています。

オンライン学習をはじめとする授業形態の変化や、行事の見直しによる学校現場の負担増加、マスクを外せないために相手の表情が見えない、机を向かい合わせて座ることができない、子供たち同士で雑談ができない、給食は1人で黙って食べる、といった、学校生活における他者との交流についても今までどおりではなくなっています。

コミュニティ・スクールにつきましても、昨年度予定しておりましたエクスカージョンは昨年度また今年度の開催が困難となり、また児童と地域の方々との交流のかたちについても見直しを余儀なくされたところであります。

また、コロナ感染者が10代以下に増加し、ワクチン接種対象年齢が12歳以上となったことで、子供たちにとっても新型コロナウイルスの脅威が身近なものとなったと思います。そういった状況下でも、府中市の教育は、前を向いて進んでいかなければならないと考えており、府中市の子供たちの「言語能力」育成を目的とし、教育課程の特例ベースカリキュラムとしての言語技術カリキュラム「ことば探究科」について、今年度中に全学年向けのカリキュラム開発を完了してまいります。

これは、教職員の中にカリキュラム指導者を養成することで、教職員全体の授業実践力向上にも寄与するものであります。

さらに、今年度は、「府中市教育課程研究センター」を設置しました。言語技術のみならず、子供の学ぶ力、生きる力を伸ばしていきたいと考えております。

また全国的に、来年度から小学5・6年生において教科担任制が本格導入となりと聞いています。大分県の調査によれば、授業交換に基づく教科担任制が実現した科目において、以前より「好き」「わかる」と肯定的な回答をする児童が増えたという話も聞きますし、教員から「時間的なゆとりが生まれ、児童と向き合う時間が増える」「複数の教師が子供に関わ

ること多様な個性を引き出すことが可能となる」といった効果も期待されています。

教育現場の専門性をさらに高めていただき、「『可能性』と『チャンス』を生かす教育のまち」を実現したいと考えております。

本日は、その「『可能性』と『チャンス』を生かす教育のまち」を目指して平成30年に策定した府中市教育大綱の進行状況について説明をいただいた後、特に、令和3年度に取り組んでいる「ことば探究科」「府中市教育課程研究センター」、また「GIGA スクールの状況と今後の方向性」についてみなさまのご意見を賜ればと思っております。

忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

■総務部長■ありがとうございました。それでは、これよりの議事進行は小野市長が行います。市長、よろしくお願いいたします。

■市長■はい、それでは本日の会議の内容についてですが、次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

先ほどもお話ししましたが、昨年度以降、コロナ禍を受けて新たな教育のありかたについて注目される機会が増えました。

市内のすべての小中学生に配布したタブレット端末の活用状況、コロナ禍における子供たちの学習環境といった内容を含め、府中市教育大綱の進捗について、実績や現在の状況を踏まえて、包括的に意見交換したいと考えておりますので、活発なご意見をよろしくお願いいたします。

まずは荻野教育長からお話しさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

■教育長■みなさんこんにちは。教育長の荻野でございます。

初めに私の方から、小野市長のもとで策定しました、府中市教育大綱の五つの項目に沿って、進捗等の概要をお話させていただきたいと思いますので、お手元に、府中市教育大綱の資料をご用意いただければと思います。

めくっていただくと5つの柱を記載しているところでございますけれども、初めに、1の「可能性に挑戦し、チャンスを生かす資質・能力の育成」について説明をさせていただきます。

幼稚園保育所から、小中学校、高等学校、その先までの切れ目のない連携した教育を地域とともに実践しているところでございます。まず主要な施策としてのコミュニティ・スクールでは、先進的な取り組みが評価され、皆さんご承知の通り、令和元年の8月には本市で、全国大会を開催することとなり、全国から1,000名を超える方が本市にお越しになりました。

府中市、府中市教育委員会、コミュニティ・スクールと、児童生徒、学校とが一体となって、府中市のコミュニティ・スクールの取り組みを余すことなく発信することができたと考えております。昨年度には学校と地域をつなぐ拠点、学びの活動拠点として進めております

「CSカフェ」をモデル校2校に開設し、今後さらなる展開を進めて参ります。

また、令和2年度からの新しい学習指導要領における学習の基盤となる資質能力として、情報活用能力・言語能力の育成が重要視されている中、後程担当から詳細についてご説明をさせていただきますけれども、本市では、県内でも早くから1人1台端末や校内LAN整備によるICT環境整備に伴う教育を推進し、情報活用能力等の育成を図って参りました。

また、先ほど市長からもご説明がありました通り、言語能力をダイレクトに育成するために、府中市独自の小中一貫教科「ことば探究科」を開設し、これからの社会を担う、子供たちに求められる質の能力育成を図っているところでございます。

さらには、今年度から、教育センター内に教育課程研究センターを設置し、新教科の充実した展開や評価指標の設定など、カリキュラムの研究にも着手をしているところでございます。

次に、2番目「生涯学び、活躍できる人材の育成」でございます。

これは学校教育を含め、社会教育、生涯学習活動の実践において、人材育成やものづくりの町の特性を生かした学習環境の創出を行うもので、今月末に第11回を迎える「府中学びフェスタ」が開催されるものでございます。

昨年度には、中国地方では、最多のコンテンツを保有する電子図書館の充実を図っているほか、すべての市民の皆様によりICTを通じた学びの展開を図るために、図書館や公民館、歴史資料館といった社会教育施設のICT環境整備を現在進めており、ICTを活用した新しい波を発信し、「ICT都市ふちゅう」の実現にも寄与しているところでございます。

また、今後は生涯にわたり学び続けられる場づくりにも、着手していきたいと考えております。

続いて、3「誰もが社会の担い手となる学びのセーフティネットの構築」でございます。誰もが未来に希望を持ち、みずからの可能性と、チャンスを最大限に生かすことができるよう、乳幼児期や義務教育段階初期からのきめ細かい支援等を通じて、ご家庭の経済状況であったり、地理的な条件に左右されない支援を行って参りました。

特に、特別な配慮を有する児童生徒の支援として、特別支援教育の充実であったり、学校の専門スタッフの充実を図ることによる学校相談体制の充実、また、教育センター2階にある「スマイルルーム」とよばれる適応指導教室を、令和2年度から第1中学校に、今年度からは上下中学校にも設置を展開しまして、誰一人取り残さない学びの継続を図っております。

さらには、先ほど申し上げたICT環境の整備による、学びの機会の創出に努め、誰一人取り残さない学びのセーフティネット構築に取り組んでいるところでございます。

続いて4の「教育基盤の整備」でございます。

教育基盤の充実は、これまで紹介した項目の根幹にも繋がる要素となっておりますが、令和元年の4月には、市内のすべての学校の普通教室に、空調が設置されまして、学習環境の格段の充実が図られました。

そして、昨年 11 月には、先ほど紹介いたしました GIGA スクール構想による ICT 環境を整備し、児童生徒より指導する教職員一人一人に、1 台のタブレット端末を配布し、効果的な活用がなされているところでございます。

そして、芝生のグラウンドであったり、市民プールの整備についても、生涯にわたる学びの環境整備に関連付けたものとして、教育委員会としても注視をしているところでございます。

また、子供たちに向き合う時間の確保であったり、充実した授業を行う、評価や教材研究の時間確保のための、教職員の働き方改革にも着手しておりまして、令和元年 6 月からは、学校での留守番電話の本格運用の開始、一斉退庁時間の設定であったり、今後、統合型校務支援システム導入による、学校運営を支える情報基盤を確立して参ります。

最後に、5「まちづくりへの貢献」でございます。

伝統と文化を継承し、府中のまちづくりにも寄与している歴史文化を生かしたまちづくりについて紹介をさせていただきます。

皆様ご承知の通り、本市の代表的な文化の象徴として、備後国府跡がでございます。約 50 年前に初めて発掘作業を開始し、平成 28 年 12 月には、備後国府跡が国の史跡に指定され、令和元年 10 月には、伝吉田寺地区が備後国府跡に追加指定をされました。

引き続き、備後国府の国庁があったと推定されている砂山地区の発掘調査を継続するとともに、引き続き様々な機会を通じて、広報活動や活用施策について進めて参ります。

また、備後国府跡の広報・宣伝で企画開発した備後国府発掘めしも、さきに触れました令和元年の全国コミュニティスクール研究大会や、資料館フェスタで公開いたしまして、参加者の皆さんに好評を博すなど、こうした取り組みも、まちづくりへとつなげて参ります。以上、教育大綱の 5 つの柱の概要をお伝えいたしました。

小野市長の施策方針の柱でもある、この府中市教育大綱にある「可能性とチャンスを生かす教育のまち」の実現に向け、引き続き挑戦し、市全体で強力で推進して参りたいと考えております。以上でございます。

■市長■ありがとうございました。いま全体についてご説明いただいたわけですが、具体的な説明を事務局にお願いしたいと思っております。

ただ、時間の制約もありますので、先ほどのお話の中から、まず「GIGA スクール進捗状況と今後の展開」を中心とした能力育成について、また『ことば探究科』と『府中市教育課程研究センター』についての事務局からの説明を受け、そのあとで自由にご意見を頂戴できればと思っております。

■事務局から、GIGA・ことば探究科について動画・パワポに基づき説明■

■市長■ありがとうございました。

それではちょっと今説明をいただいた GIGA スクールについて、また「ことば探究科」について一つずつお伺いしたいと思います。で、最後に、冒頭、教育長の方が話をされたことも含めて全体にご意見をいただければ。まず、GIGA スクールについてでございますが、皆

さんの方から、ご意見ご質問等ございましたら、お願いしたい。

■松尾委員■保護者の立場から、Chromebook はすっかり子供は使いこなしていて、逆に大人のほうに取り残されているような、そんな感じですね。

ちょっと説明のところにもあったんですが、家での使い方が変わったのが、今まではゲームとか動画を見るといった娯楽ばかりだったのが、言葉の意味を検索したりとか、調べものをしたりというふうに、学びとか生活にも入り込んできたように思います。

で、具体的に学校関係で chromebook をよく使ってるのを見るのは、調べ学習とか、あと、教科によるみたいなんですけど、授業のまとめを先生が上げてくださってるんですよ、GoogleClassroom に。そういうのを見て、復習をしたりですとか、あと、一番長い時間してるのは、タブレットドリルですね。すぐに答え合わせしてもらえるんですね、自分たちで〇付けしなくても。その分が時間短縮にもなって、また紙だったら繰り返しはちょっと難しいんですけど、あつという間にもう一回最初からやり直してっていうのもできて、いいなあっていう感じで見させてもらってます。

ただ、タブレットドリルが時々不具合があって、「4 文字で答えなさい」とあるけど実際の答えは 5 文字で、それで結構大きな赤い字でピンってされる。

そこらへん、来年度はどんな感じに？

■市長■通信環境問題とかじゃなく、アプリそのものの不具合って、その辺の音が他からもありますか？

■主幹■採用したのはいいんだけど、あまりよくないというようなのはどんどん更新していきます。

■市長■これはもうどうか言ってもらって、GoogleClassroom もすごいっていいっていうご意見をいただいたんですけど、他の方たちもそういう使い方っていうのは、先生方はされているんですか。

■課長■それぞれの教室、Classroom もありますし、中学校でしたら、教科ごとの Classroom がありますし、部活の Classroom をつかって連絡事項を送るみたいなことも。

■藤井委員■南小の 6 年生が遺跡にタブレットをもっていくという場面があったんですけど、子供たちが主体的に見学をしている。そして、学んだことを教室に帰ったら、また、学びを思い返してコンテンツづくりに生かしたり、子供がすごく主体的だったと思うんです。

以前、私も南小学校にちょっといましてときに、遺跡の場所は違いましたが見学に行かせていただいたことがあるんです。そのときには、タブレットの環境は全くなくて。当時もとても有意義だったと思っているんですが、けどやはりあんなふうに子供が主体的に自分からこう、遺跡に関わっていたかということ、やっぱりちょっとこう説明を聞くっていう受け身の話だったかなと、ちょっと比較して思っていたんです。

タブレットをいち早く導入していただきまして、それを各学校の先生方が、どんなふうに使っていけばその子供が主体的に学ぶだろうかと研究されたんだと思うんですが、あの場面で子供の成長がよく見えたなど。タブレットの利用が進んでいるなど。

あと、他の学校でも、多分先生が、学年によって対応は違うと思うんですけど、タブレットを学習の道具として、いかに使わせていっていかってというふうに広げていくところが、今後の課題というか、今後必要なことなのかなと思いました。

■市長■どの先生方も、先ほど松尾さんも言われましたが、親の方が、より子供の方がしっかり使いこなしているという中で、次の「ことば探究科」でも言われたように、やっぱり地域・学校、一緒に協力をしながらというか、そこも巻き込んでっていうところもあると思う。

ちょっとまず、どの先生方もという部分と、あと地域が完全に GIGA スクール・ことば探究科も含めて、どういうふうと一緒にって取り組んでいけるかというあたりお答えをいただければ。

■教育長■先生方に対しての、もちろん研修は当然なんですけども、先ほどセンター長から説明ありました教材というものについてご説明させていただくと、すべての先生がアクセスできる Classroom というところに、いろんな教材を先生方がアップロードできる仕組みを構築しています。

先ほどの事業の展開とかです。ね指導案とか、そういうのをどんどんアップして、自分たちで、それを活用して、アレンジしたりとか、学校内で研修をするっていう部分もありますけれども、加えて ICT の活用を通じてですね、すべての学校が繋がるといいますか。そういう教材の共有などしながら展開をしていくという方法をとっております。

地域の方にもっていうことで、「ことば探究科」の説明もあったように、なかなか今そういう場所が確立されてない部分もあるんですけども、子供たちだけじゃなくて、我々も含めて、大人にも大事にしていきたいということもありますので、そういう研修機能拡充にも取り組んでいきたいと思っております。

■主幹■場合によってはですよ、地域に対する講義を先生方にさせていただく方法など、当然プロモーションビデオやリーフレットを作って、と理解していただくということはあるんですけど、実際に見ていただくと、結構なレベルなんですよ。

子供は考える、南小学校の例（見たことがない相手にモノを説明するとき、まず形を説明するか・色を説明するか・素材を説明するかといった授業）で言うと、本来は形なんです。

けども今は Youtube 等でまず素材から説明するという流れになっている。情報を把握しながらやっていかなきゃいけないんだけど、これには正解がない。だから授業を通じて子供から引き出すということになる。強制的にやるんじゃないで、そういうところだろうと思います。

■市長■GIGA から「ことば探究科」どちらでも構いませんので、何かお気づきがあれば。

■高橋委員■GIGA も「ことば探究科」もそうなんですけど、先進的な取り組みで、今後企業等と密接につながっていく場づくりだと思っておりますが、学校で机に座って授業できる子供さんたちは、それで前向きにとらえていける状況づくりが進んでる。

ただ、今不登校と言われるような学校になかなか行きにくい子供さんたち、こういう子た

ちに対しての取り組み状況というんですか。オンラインで同じようにまとめる、状況づくりができてるのか、またもう一つ障害をお持ちの子どもたちがどこまでそういったところの踏み込んで活用ができていけるのかな。こういった子供さんにもやっぱり将来の可能性がある状況だと思うんで、そういったところの方がなかなか難しいと思うんですけども、今後、さらにこう、活用できる場づくりを模索していただければと思うのと、もう一つはですね、この「ことば探究科」非常に必要で大切なことだと思うんですけど、来年4月、新年度を迎えると思うんです。

各先生方、評価が難しくなるんじゃないかな。特に軌道に乗っていくとそうでもないんですが、特にこの1年、いろんな、さっき申し上げたように、「正解がなくて妥当性がある」というふうな状況で、評価もしていかなければならない教科だというふうに思いますので、その辺基準を作られていらっしゃるのか。

また特にさっきおっしゃられた中で、楽しい嬉しいっていう子どもさんは非常に前向きにとらえてらっしゃるし、逆に苦手だという児童生徒さんもいらっしゃる。その辺も含めてですね、なかなか評価しづらいついていうのも出てくる。その辺のある程度基準というか基本形をつくってらっしゃるのかどうかという。そのあたりをお聞きできればと思います。

■教育長■そのあたり、評価については、これからですね、今も続いてはいますけれども、細部にわたって設計をしていきたいというふうに思う。

また苦手な子も好きな子もっていう話がありましたけれども、好き嫌いだけじゃなくてですね。子供たちにとっての、これから生きていく上で大事な力なんだっていうところの認識も高めていくことによってですね、この教科を大事にしてもらいたいなと思いますし、例えこの教科っていうのは、ペーパーテストとかそういうものでもない部分もありますので、子供たちの対話を繰り返すというですね、様々な観点からアクション出来るんじゃないかと思っていますので、いろんな、ケアをしながら進めていきたいと思います。

■高橋委員■一定の方向をつくるのは難しいというふうに思うんですけども、やっぱり一人一人の可能性を繋いでいくような評価をしていただければと思います。

■市長■最初に言われてた、特別支援学級と、いわゆる普通教室を結んで、取り組んでる内容をデジタルで共有するとか、もう一つ不登校の子に対してはGIGAを使ってといった取り組みというのはどうなんでしょうか。

■教育長■児童生徒全員に端末を配布しておりますのでそういった活用もできますし、2階の適応指導教室には端末を別に用意をして、そういう児童生徒に対しては個別に対応できるようにしております。

また、不登校の児童生徒子に限らず、コロナの影響によって、長期間外出できない児童生徒に対して、これまで、できることとしては、例えば必要な書類をご家庭に送って、お父さんお母さんの中での学びということが中心でありましたけれど、そこがICTの技術を使うことによって、オンラインでの、対応・ケアができるようになっております。

■和知委員■「ことば探究科」の、先ほど見せてもらって、こんな授業私もしてみたかった。



伝えるのってすごい難しいことなんですよね。おんなじように伝えても、聞く人によってとらえ方が違ってそれがトラブルの原因になったりとか、いろいろな不安に繋がったりとかっていうことが、今の世の中、すごい多いと思うんですけどその中でやっぱりこういうふうに、普段から授業の中で、自分の思うことを伝えて、それが、皆に伝わった時の喜びとかそういうことを学んでいくと、本当子供たちも将来、大人になってきっと役に立つって。

これから多分、全国から視察が来るんじゃないかと思いますが、今の府中の特長ってというのがすごい楽しみだなと感じます。

■市長■和知さん、例えばユースホステルをやられて、いろんな子が来て、一緒にお話をする場が随分あったんでしょうけども。

自分から話をしなくてもそこにいるのが好きな子もいたりするんじゃないと思う中で、言ってみれば知らない人たちが集まって話をしている中にいるとかというときに、こういうところは気をつけてるんだってということがあったりしますか。

■和知委員■私は、学校に行けない子供さんなんかを何人かを預かって、一緒にユースで生活をしながら、お客さんと対応するっていうことをしてきて感じたのが、やっぱり、いろんな大人を見て欲しい。いろんな大人の考えを聞いてほしい。

学校に行けなくなった子の世界っていうのは狭いんです。自分の身近な所とか学校とかっていう人としか触れてないので、大人はこんなもんだとか、世の中はこんなもんだ、っていうことを思ってる子が多くて、それで、MG ユースホステルではおせっかいな人達が多くて、手伝ってあげたいって思う大人たちが、他人なので、好きなことの話ができる。近所だと、何か言われるんじゃないかとか、また、親が困るんじゃないかとかいう、やっぱり子供なりにいろんなことを考えてると思います。

だけど、全然名前も知らないよその県の人だったりとか、そういう人たちの話っていうのは、また、旅をしてきた話だったりとか自分の経験とかっていう話が、すごいその子たちの成長に繋がったんですよ。

だからやっぱりいろんな大人の考えとか、いろんな人の考えとか、話を聞いて自分の思いを話せるということはずごく大事だと思います。

■市長■GIGA スクール・ことば探究科にかかわらず、冒頭、教育長の説明も含めて、何でも結構ですので、府中市教育にお気づきの点がございましたら。

■高橋委員■生涯学習関係とかで使えるような形を取っていただくと。やっぱり、親世代もそうですし、中高齢者・高齢者の人も、あの人は何を言ってるんだろうかということがある。

表現力でも、いろんな意味でも、やっぱり授業参加の一環であったり、コミュニティスクールの中で、「ことば探究科」が日々使えるような、学習の場を設けていただくと、認知症予防にもつながるのではないかと。これは冗談込みですが、やはり生涯学習の一環として活動していただくと、非常に府中市の教育がこうした子供さん方だけでなく一緒に地域

で学習していける。

こうした状況がつかれるのではないかなというふうに思いますので、そうしたところ、ちょっと考えていただければいいのかなというふうに思う。

その一環としてですね、やっぱり可能性とチャンスを活かす学習としてですね、例えば、児童生徒さんには、空いた時間を有効活用できる方法がないかなと。例えば放課後であったり土曜日であったり、学校なり公民館なり、もっとこう活用した、学習の場あるいはいろいろな意味での学習の場が持てないかなというのが一つあります。

というのは、確かな学力の向上においては、せんだって全国学力テストがあったんですけども、府中市も平均点前後ぐらいで推移してるんですけどやっぱり、教育のまち府中を目指すのであれば、一つはやっぱり学力の向上が必要ではないか。学力がすべてではないんですけども、一つにはその学力向上が必要ではないか。

で、それから豊かな心をつくるにはやはり、CSW（キャリアスタートウィーク）のような形、地域の方達との交流を深める中での総合学習が必要になってくるのではないかなというふうに思います。

もう一つ、学生はもっとクラブ活動のみならずですね、いろんな活動がそういった時間をもっともっと活用できないかなというところで、あまりこう学校を使うと教員の方が負担に感じるようなところもあるんで、教員の方はもうタッチしてもらえない・もらわない状況です。こうしたところが作っていけないかな、というふうに思うんですが。

いろいろ、教育委員会で細部まで研究していただいて、そうした可能性とチャンスを広げられるような、場作りができないかなというふうに思ってますので、ご検討いただければ。

■和知委員■一つとして、私、4年教育委員させてもらって、ここ（この建物）に来てるんですけど、2階がスマイル教室になっていて。それが平成16年から始まったと聞いてます。それから17年、ずっとこの場所を使われていて、雨漏りがしてるとか、その子供の状況も変わってきてる。

その学年がやっぱり幅広くなってるって聞くんですね。そんな状況の中でやっぱり、おんなじあの狭い教室では無理じゃないかと思うんですね。やっぱり高学年になってくると、個室も欲しいだろうし、その状況によって、いろんな子が使えるような施設であるべきだと思いますし、ここには、教育課程研究センターも入ってますね、そうすると、さっき言われたように、いろんな方に来てもらいたいんだから、やっぱり多目的で使える施設に変えていかないといけない。

そうなった場合、老朽化も含めてですけど、ここの、建て替えとか、そのやっぱり将来を見据えて、やっぱり子供も地域としても、誰でもが来れるような施設に変わっていけば、これから多分、全国から視察も来ると思うんです。

そうなった時に、やっぱり皆が来て、すごいなって思うような、施設であったほうがいいと思うんですよ。

私ここに入って行ってやっぱり、せっかく頑張って、学校には行ってないけど、ここに居

場所を見つけたっていう子が来るにしては、やっぱり少し暗いなど感じます。入って時にやはりあってよかったって思うようなところから、環境を整えていった方がいいのではと思います。

■市長■今年、このスマイルルームに加えて、第一中学校、上下のほうでも、できるだけ行きやすいように努めている。

で、ここの教育センターが確かに老朽化している中で、教育委員会のそばにあるのがいいのかどうかということも含めて、ご存知のように天満屋の2階に i-coreFUCHU、そこに多目的ホールというのがありまして、隣の多目的スペースっていうのも自由な使い方をされている。

スペースも非常に、本当に自由な使い方をしていただいて、コミュニティスペース、フリースペースでは、高校生がやられたり仕事帰りの会社員の方が寄られたりして使われたり、集まっていろいろ話をされている。多目的室は、ちょうどこの部屋ぐらいの広さがあって、勝手に行って勝手に使うっていうわけにはいかないんですけど、柔軟な教室として使ってもらったりしてますので、そういうのも含めて、今おっしゃったようなところ、使いやすい・行きやすい場づくりっていうのは必要かなと。

■教育長■高橋委員がおっしゃったこと、その通りだと思ってまして、またその、学力の向上というのはやっぱりこれからも、重視していきたいと思っています。それが一つの、おっしゃったように可能性とチャンスを広げるっていうことなのかなとも思います。

学校では様々な機会、取り組みが進んでいるなかで、学校を一步外に出ると、いろんなことができる時間もあるものの、その受け皿っていうのはそれほど多くない、学力向上に向けて学校外でどれだけできているかって言われると、なかなかそこは充実していない部分もありますので、例えば放課後を使った学習支援などにもチャレンジしていきたいと思っていますし、豊かな心・健やかな体といった学力ではない部分として、町中にいろんなコンテンツを用意すること、子供たちが、あるいは市民の方が、自分の時間を有効に活用できるような、そういう学びの選択肢がたくさんあるようなまちづくりについて、ぜひ取り組んでいきたいなと思います。

■市長■「ことば探究科」を地域を広げていったらどうかという意見、本当にその通りだと思います。

筑波大学が、サッカー協会とかいろんな協会とタイアップしている中で、何年前、府中もサッカー協会の人達も連携されているというのを何度か聞かさせていただいて、面白いなと。もちろん学ばってということの面白さを知ってもらうというのは、いい経験だと思いますんで、地域の人にぜひ広げていただいて、参画してもらえば、これ本当楽しいと思いますので。

■主幹■我々が行政に携わるうえで、言語能力というのは非常に重要で、施策を説明するか、わかりやすく説明できるというのは非常に重要なんで、町全体がそういうふうな雰囲気になってくると、「ことば探究科」で学んだことは、日常生活で直接通用することではない

んだけれども、説明するとかいろんな場面で役に立つ。

これを府中市に取り入れて、多くの人に知っていただくというのは、これは学校教育のレベルを上げることに繋がる。

■教育長■日常生活に活用できないものもあるんですけど、基本的には、日常生活に生かせるものとして、中にはその技術を使うと逆にコミュニケーションが難しくなったりするというものもあるけれども、基本的には、日常生活、社会生活にも生かしていけると思っています。

■藤井委員■今言われたことや、やっぱり学力をつけていかなきゃというお話のなかで思うんですけど、動画のなかにもタブレットを活用しつつ身につけた言語技術を生かして子供が議論しているという場面が出てきたと思うんですけど、授業の中で、かけたいところにその時間がかけられるという、まどろっこしい授業でなく、意見が集約されたり、子供がそれについての的確な発言ができるという。

即座にあれがいえるというのは、確実にやっていくことは学力の向上につながるんだな、で、やっぱり市民の皆さんが、全国学力テストの結果なり示していかないと理解してもらえない。

小中一貫教育がはじまって13年くらいですか、いろいろ、ほんととどまることなく、次々といろんな施策を出していただいて「ことば探究科」がはじまり、全国で、全市的にやっているとところは初めてだ、と伺ったんですけど、

これはぜひとも本当に実りあるものにしてほしい。学校の中にすぐれた、動画で示してくれるような、すぐれた先生方がやっぱり結構増えて、それにはつくばへ皆さん2年に分けて行かれたんですかね、結構な予算がかかるのではないかと思いますけれど、やっぱり学校の中に、すぐれたリーダーがいてこそその推進だと思って、引き続きお願いしたいなと思います。何かいろんなことが、次々と変化して、新しく変わっている今の世の中、それを指導してくださるのが府中市教育委員会。先見的に、大局的に社会の変化や時代の要請をいち早く、なんかこう、分析して、小中一貫教育を始めたり、コミュニティスクールに段階的に取り組んだり、やっぱり、教育委員会の皆さん方、そんなふうな、事務局の皆さんがされてる仕事が、すごく多様化してる。

多様化してすごく専門的なことに対応していかないといけない。実現するためには専門知識や設備が必要なんだけども、それに対応するだけのセンターの機能があるかという、なかなか厳しいところもある。

このセンターが元気でいてくださらないと、取組みに元気が出ないんじゃないかと思うんで、今の時代の教育の中身を作っていくに足りうるものにしていけたらいいなと。

週に2日ですけどちょっと勤めさせていただいてるんですけど、何と今は専門的な知識が必要で、なんと変わったんだろうと。

先生から、宿題・課題がClassroomを通じて出される。そして、課題を動画で取ってきてください（という指示がある）。撮るのから送るのから、私たちではわからない、これそう

いう瑣末な少しの例ですけどすごく変化した教育の状況ではないかと思います。教育の中身づくりとそれに対応する施設・機能をお願いしたいと思います。

■松尾委員■どうしてもお願いしたいことがあります。普通教室にエアコンを付けていただいて、さっきから動画で出てきている子たちは普通教室でとても集中して授業を受けていますよね。

なんですけれども、理科室に行けば、汗だくの中ですら授業を受けないといけない。

そのあと図工室に行ったら、汗がポタポタ落ちながら絵を描いていけないといけない。

何とか、特別教室と言われる普通教室じゃないところの授業する教室にも、エアコンを設置してすべての教科が集中して受けれるようにしていただきたいです。さらに言うならば体育館も。

■市長■ちょっと順番がどうなるのかわかりませんが、何とかやっていければと。すべてが一度にとなるか、段階的になるかというのはあると思いますが。

言葉のことは今更ここで言うこともないんですけど、使い方によっては刃物にもなるし、また使い方によってはビタミン剤にもなるものなんで、もちろん、言葉を使うだけじゃなく、やっぱりその背後にある心の育成も当然してもらわないといけないんで、この「ことば探究科」に取り組んでいただきたい。

■市長■会議終了時刻が迫ってまいりました。

本日は皆様からいただいた意見を参考にして、これから来年度の予算編成を行いまして、教育関連の施策を具体的にしていきたいと思います。引き続きのご助言ご支援を賜りますようお願いいたします。

以上をもちまして、府中市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。